

夏休み特別展示

いせき はっくつ
遺跡発掘

はじめのいっぽ

こうこがく
- 考古学の基礎知識 -



「遺跡ってなに?」「発掘ってどうやるの?」
遺跡や発掘調査の基本的な情報を
土器や石器、写真やパネルなどで紹介します。

案内役「ひろまるくん」
(弥勒寺官衙遺跡群 イメージキャラクター)

重竹遺跡[下有知]
出土 和鏡



大杉遺跡 土器出土状況 (土師器・須恵器)

2023年 8月5日(土) ~ 8月27日(日)

会場 武芸川ふるさと館 一般展示室
(関市武芸川町八幡 1566)

開館時間 午前9時~午後4時 30分
休館日 木曜日(祝日を除く)及び祝日の翌日(8/10・17・24)
入館料 無料



アクセス
◇東海環状自動車道 関広見ICより約 8分
東海北陸自動車道 美濃IC より約 10分
◇岐阜バス
・「関市役所」または
「関シティターミナル」より
関板取線「ほらどキウイプラザ」行き
「武芸川温泉」下車
・「名鉄岐阜」より高美線「中濃庁舎」行き
「武芸川温泉」下車

8月6日(日)
関連イベント **まが玉づくり**
時間 午前10~12時 場所 武芸川ふるさと館
対象 小・中学生(保護者も可)
人数 20名(先着順) 参加料 一人 370円
申込先 文化財保護センター(45-0500)へ電話でお申込みください。(7月10日より受付)

《 開催にあたって 》

関市文化財保護センターでは、ふるさとの先人達が長い歴史の中で受けついできた有形・無形の文化財について調査し、その保護や活用に取り組んでいます。埋蔵文化財の発掘調査もその一つであり、史跡整備のための発掘調査や、道路や建築物などの開発にともなう記録保存調査など、遺跡の範囲内やその可能性がある地域において試掘・確認調査や本発掘調査などを行い、昔の人々の生活や地域の様子を研究しています。

夏休みの展示では、そうした遺跡の発掘調査の内容や概要を、未来のふるさとをにう若い世代を中心に広く知ってもらえるように、遺跡や発掘に関する基本的な語句や情報などを紹介しています。これを機会に、文化財の保護・活用に対する興味・関心を高めていただけたら幸いです。

関市文化財保護センター

いせき はっくつ
「遺跡」「発掘」とは？ Q&A

Q.「遺跡」ってどこにあるの？

A. むかし（おもに江戸時代以前）の人々の生活の跡が、地中や地上に残っている場所や、それが予想される場所などを「遺跡」として登録しています。2023年現在関市内では、約550個の遺跡が存在しています。みなさんの家の近くにも遺跡はたくさん残っているんですよ。



展示では市内全遺跡の位置を示したパネルも紹介します。

Q.「遺跡」では何がみつかるの？

- A. ◎ 地面に残る生活の跡＝遺構いこう
- ★住居・倉庫など建物や柱の跡
 - ★土器や刀などを作る作業場の跡
 - ★炉・カマドなど火をたいた跡
 - ★古墳・塚などの墓の跡 など
- ◎ 地上や地中に残る物質＝遺物いぶつ
- ★土器・石器・金属器などの道具類
 - ★骨・貝がら・炭などの残り物



石をみかいてつくった「まが玉」は首飾りなどに使われたみたいだね。

Q.「発掘」はどうやってやるの？

A. 地中に眠る遺跡はそのままの形で大切に残しておきたいものです。でも、その場所で住宅や道路などが計画され、遺跡が壊れてしまう場合には工事前に調査を行います。また、遺跡の様子をつかむために、工事以外の場所でも研究のために発掘して調査を行うこともあります。

〈昨年度の研究発掘〉
下大洞1・2号古墳
(武芸川町平)



Q.「発掘」した遺跡はどうなるの？

A. 工事前に調査した場合は、写真や図面などで記録を残し、その後の遺構は、工事で埋められたり削られたりしてなくなってしまいます。でも、貴重なものは史跡や公園として、元のままの形や復元した形で残していきます。また、遺物はすべて保管し、後世に伝えていきます。

〈おもな史跡〉
弥勒寺史跡公園（池尻）
塚原遺跡公園（千疋）

